

## 専門学校及び大学の部

### 優良賞

#### 「みんなの駅、道の駅」

琉球大学観光産業科学部 4年次 上原 依子

みなさんは「道の駅」と聞いたときどのようなところを思い浮かべますか？ドライブの休憩がてらによるところ？地域のイベントなどの情報を得るところ？その地域の特産品や野菜が売っているところ？どれも間違いではありません。国土交通省道路局によると道の駅とは「道路利用者のための〈休憩機能〉、道路利用者や地域の方々のための〈情報発信機能〉、そして道の駅をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための〈地域の連携機能〉、の3つの機能を併せ持つ休憩施設」とされています。沖縄県にも国土交通省道路局に正式に登録された7つの道の駅のほかにも各地にたくさんの道の駅があります。どの道の駅もそれぞれの地域の魅力が詰まった施設になっており観光客が訪れることもあるため、道の駅は単なる「休憩施設」ではなく、「観光スポット」でもあると考えられます。

しかし、沖縄県の道の駅はまだ観光スポットとしては十分ではありません。ほとんどの道の駅が「休憩機能」「情報発信機能」「地域の連携機能」は満たしています。けれど、観光スポットとしての道の駅を見たときに鍵となる大切なものが足りないのです。鍵となるもの、それは体験すること「地域の文化体験機能」です。道の駅で、買い物ができたり情報を得られたりするだけでなく、地域の文化を体験できることは、地域をより深く知ることにつながり、その地域での観光をさらに印象深いものにすること間違いありません。実際、県外の道の駅のなかには、それ自体が目的地となるようなテーマパークのような観光

スポットとなっている道の駅がたくさんあります。そこでは、その地域の自然を活かしたアクティビティや地域の特産物の収穫体験ができたり、地域の伝統工芸品を作ったりと、地域の文化を体験することができるのです。私は、沖縄の道の駅もこの「地域の文化体験機能」を取り入れることで、道の駅をただの休憩施設ではなく観光スポットへ進化させることができると考えています。

では、沖縄の道の駅に「地域の文化体験機能」を取り入れるとしたら、どのような体験をしてもらえばいいのでしょうか。沖縄には海や山原の森などの豊かな自然や、空手やエイサー、紅型や陶芸などの伝統文化・工芸など沖縄独自の魅力的なものがたくさんあります。それらを活かした体験を取り入れればよいのです。今でもいろいろなテーマパークやビーチなどに行けばそれらの体験はできます。しかし、「道の駅で体験できる」ということがポイントで、休憩がてらによった道の駅で沖縄ならではの体験ができる、その気軽さが観光客にとっての魅力になるのです。ちょっと休憩するために寄った道の駅で伝統エイサーを地域の人に教えてもらって一緒に踊ったり、ダイビングの情報を得ようと寄った道の駅でそのままダイビングができたり、道の駅でその地域産の野菜を買ってそこでそのまま沖縄料理を作ることができたりという感じです。

また、道の駅が観光スポットとなり賑やかになることは観光客だけじゃなくその地域住民のためにもなります。人がたくさん来ることで地域活性化になるというのが1番に考えられますが、それだけではありません。道の駅を訪れる人に地域の文化を体験してもらうためには、まず、地域住民が自分たちの地域の文化をよく知らないといけません。すると、地域住民が自分たちの住むところの文化の価値を改めて認識することにつながり、地域住民が自分の地域に誇りをもつことにもつながるのです。

道の駅が従来の「休憩機能」「情報発信機能」「地域の連携機能」だけでなく

「地域の文化体験機能」も備えた施設となり観光スポットとなることで、沖縄観光に新たな魅力が増えると思います。そうすることで、観光客には地域を深く知ってもらうことができ、地域住民には自分たちの地域の魅力を再発見することができます。そして、道の駅は、利用者だけ観光客だけ地域住民だけの誰か特定の人たちだけのものではない、みんなの駅になるのです。